

01

リビングフィールド

2023年
9月



スオスダイ！
(こんにちは)

主の御名を賛美いたします。私たちは、2015年3月に日本バプテスト連盟より派遣され、2023年3月までの8年間、カンボジアで宣教活動を行ってきました。2023年4月、CBU（カンボジアバプテスト連合）より招聘を頂き、主の導きとみ言葉によってカンボジアの地で宣教活動を継続しています。

CBU宣教師として

CBUからの生活支援は基本的にありませんので、これから日本の教会や個人の方と祈りにつながり、具体的な支援の中で、長期的に宣教活動を続けられることを願い、祈っています。

家族構成は、和幸、薫、長男、来主(くろす14歳)。次男、栄主(えいす、11歳)の4人です。二人の子どもたちはカンボジアの首都、プノンペンにあるミッションスクール、ホープ・インターナショナルスクールに通い、日々聖書の学びとキリスト教の弟子訓練を受けています。私たち家族の生活と子どもたちの教育の必要が満たされるために、お祈りいただけると幸いです。



CBUオフィス教会の礼拝後に、教会員全員で集合写真
半数以上が子どもたちが占めている。

あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。
そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。

あなたは祝福となりなさい。創世記12：1-2

日本一時帰国

今年6月3日から8月7日まで、子どもたちの学校が夏休みに入ると同時に、約2か月間の日程で日本に一時帰国しました。日曜日に全国各地のバプテスト教会、並びに他教派の教会を訪問しました。礼拝や祈り会に参加させていただき、証しや活動報告の機会を頂きました。訪問を受け入れてくださった教会の皆さまに心から感謝いたします。

今回で4回目の一時帰国ですが、全国各地で、今まで以上の多くの出会いが与えられました。



小倉教会での報告会の様子

6月4日（日）の横浜JOYバプテスト教会の礼拝出席から始まり、日曜日に日本各地のバプテスト教会にて礼拝に出席させていただきました。各地で証し、説教の奉仕の機会を頂いた他、品川バプテスト教会、日本バプテスト小倉キリスト教会、そして常盤台バプテスト教会にて、報告会を開催いただきました。福井キリスト教会では、中部地方連合との共催の形で、「東アジアへの草の根的宣教の可能性について考える」集会を開催頂きました。各地の教会の皆さまとの出会いから、私たちは大きな励ましを頂きました。この1年、カンボジアで起こされた主の恵みを分かち合えたことは私たちにとって大きな喜びです。



品川バプテスト教会での報告会にて
山中臨在先生、参加者の皆さまと集合写真

WUPM Japan 伊藤仁先生との出会い

帰国の1週間ほど前、主が驚くべき出会いを用意してくださいました。WUPM (World Unreached People Missions世界未伝道部族宣教会)、日本支部の伊藤仁先生との出会いです。WUPMは韓国に本部を持つ宣教団体で、伊藤先生は、WUPMに所属される前、別の宣教団体からの派遣でミャンマーで15年以上活動されてきた方です。伊藤先生ご自身、私たちと同じく、長年所属していた団体からの派遣が終了した後も、宣教地での活動を継続された経験をお持ちです。



WUPM Japan代表 伊藤仁先生（右）
お連れ合いのソジョン先生（左）

現在、伊藤先生はWUPMの日本支部代表として、海外宣教の重要性を日本の教会やミッションスクール、キリスト系の企業に向けて講演されています。一人でも多くの日本人を宣教師として、祈り送り出すミッションを大事にしている宣教団体です。神様は、伊藤先生を通して様々な教会を導き、宣教報告の機会を与えてくださいました。カンボジア宣教の祈りの輪が更に広がりますようにお祈りください。

＜日本滞在中、礼拝や祈り会に出席した教会等＞

横浜JOYバプテスト教会	品川バプテスト教会
町田カルバリーフェローシップ	アンコウソフト株式会社
郡山コスモス通りキリスト教会	多摩川キリスト教会
大和カルバリーチャペル	奈良基督教会（日本聖公会）
横浜オンヌリキリスト教会	日本バプテスト小倉キリスト教会
ハレルヤ・インターナショナル・クリスチャンスクール	(ジーザスファミリーチャーチ所属)
福井キリスト教会	アロン318コミュニティチャーチ
	(沖縄バプテスト連盟)
平尾バプテスト教会	常盤台バプテスト教会

CBU（カンボジアバプテスト連合）

私たちが派遣されているカンボジア・バプテスト連合は、設立28年目の若い団体です。カンボジア全土に500以上の教会がありますが、その多くは民家を利用した「家の教会」です。地方訪問伝道、開拓伝道に力を入れています。コロナの影響はあったものの、教会の数は順調に増えています。ただ、活動の予算の大部分を外部からの支援で補っています。そしてCBUの牧師のほとんどは、農業や養鶏をしながらの兼業牧師です。牧師養成と訓練、支援が長年の課題です。



CBUの地方伝道活動の様子



CBUオフィス教会

1Fにホール、2Fに礼拝堂があります。

CBUオフィス教会

私たちがカンボジア派遣以来活動を行っているCBUオフィス教会では、2022年4月に教会として初めてイースター礼拝を献げました。9月にはパソコンクラスやカンボジア語クラスが始まり、またユースのメンバーが新たに与えられるなど、この1年で多くの出来事が起こされています。今年4月に4年ぶりに行われたバプテスマ式では、子どもを中心に30名の方々がバプテスマに与りました。礼拝出席者の大部分を子どもが占める、「子どもの教会」でもあります。

日曜学校（教会学校）

教会では、子どもたち、青年たちとの日曜学校（教会学校）を行っています。8月13日、日本からカンボジアに帰国して最初の日曜日、私たちの車が教会に到着するやいなや子どもたちは教会から飛び出し、大喜びで迎えてくれました。私たちが不在だった2か月間、青年のリターさんと教会員のケマさんが中心となって日曜学校をリードしてくれました。翌週の20日には8月生まれの子どもの誕生日会を行い、30名近くの子どもが参加してくれました。今後も、子どもたちがキリストにあって成長してゆけるように、どうぞお祈りください。



カンボジア帰国後最初の日曜日
出迎えてくれた子どもたち

女性支援活動「希望の糸」 （マクラメアート）

私たちはカンボジア派遣以来、貧困に苦しむ女性たちのために祈り続けてきました。その一人、教会員のケマさんは6人家族で、以前は縫製工場で働いていました。しかし、持病があり体が弱く、働くことができなくなってしまったケマさんは、家計に負担をかけているという思いをずっと抱え、苦しんでいました。主が私たちの祈りに応え、「マクラメアート」という手編みの手芸を示されました。今年の1月から、週に1回、薫宣教師がケマさんに教えています。



プラントハンガーを編んでいくケマさん

6月から7月にかけての日本滞在中、訪問した各地の教会でケマさんの作品を紹介し、多くの方々に購入頂きました。帰国前に用意した「希望の糸」の作品は全て売り切れました。購入いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

現在、幾つかの教会で、「教会のバザーで販売したい」という申し出も頂いています。「希望の糸」の製品が今後も日本に、カンボジアに広がっていくように、そして更なる女性支援に繋がっていくように、お祈りいただければ幸いです。



日本の教会で、「希望の糸」の作品を紹介する
薫宣教師

来主と栄主の学校生活 (ホープスクール)

来主と栄主は、2015年の派遣以来ずっと、ノンペン市内の「ホープ・インターナショナルスクール」に通っています。今から約20年前、宣教師たちが祈りによって、子弟の弟子訓練のためにスタートした学校です。幼稚園から高校まであり、全校生徒数は約300人ほどです。

カンボジア帰国後まもなく、8月9日から新学期がスタートしました。来主は中学3年生、そして栄主は6年生クラスに所属しています。来主は今学期から、国際カリキュラム「IGCSE」の学びが始まりました。大学進学を見据えた2年コースのカリキュラムで、専攻科目にかなり自由度があります。感謝なことに、来主は先生に恵まれたようで、昨年度よりも生き生きと勉学に取り組んでいます。



学校への通学路。工事中あり、未舗装の道路あり
朝は交通量も多く、かなり神経を使います。



自転車で登校。
安全のため、私（和幸）は栄主と並走します。

一方、6年生に進級した栄主は、日本の中学校のように科目ごとに先生が変わり、教室も移動するようになりました。また自らのPCを用意して、毎日授業や宿題に取り組んでいます。最初は授業ごとに教室を移動するのが大変だったようですが、それもすぐに慣れ、新しい学年での学校生活を楽しんでいます。

家から学校までは2km程度で、歩けない距離ではないのですが、交通状況と安全を考え、これまでずっと車で送迎していました。新学期2週目から、ガソリン代の節約のため、自転車通学を開始しました。当面は私（和幸）が、栄主と伴走する形で共に通学しています。どうぞ、登下校時に事故などから守られるように、お祈りいただければと思います。

キリング・フィールドから リビング・フィールドへ

去年から教会に来るようになった子どもたちは、近くの貧しい集落に住んでいます。道路は未舗装で、トタンの簡素な家が立ち並び、その裏にはドブ川が流れる、周りの地域とは雰囲気の違いがある集落です。この集落から歩いてすぐのところに「キリング・フィールド」があります。冒頭で述べました、ポルポト政権時代の処刑場です。キリング・フィールドでも多くの人々、子どもたちが殺されました。



集落を定期的に訪問。教会に来ている
子どもたちが出迎えてくれる。



集落の子どもたち。日曜学校に参加している。

私たちに主から与えられたビジョン、それは「リビング・フィールド」です。キリング・フィールドが、「殺人の大地」であるならば、リビング・フィールドとは、神様の生命が豊かに育つ、「いのちの大地」です。私たちに与えられたビジョンは、この貧しい集落と近隣の地域が、主の祝福と恵みによって、リビング・フィールドへ変えられていくという希望に他なりません。そのしるしとして、主はこの貧しい集落からまず、多くの子どもたちを教会へ導いてくださったと信じています。私たちは、キリング・フィールド近くから一番近い、唯一の教会として、この集落の宣教に、仕えていきたいと祈り願っています。

カンボジアの人々の多くは悪霊や魂の存在をリアルに信じています。ゆえにキリング・フィールド近くの地域は、地元の人々にとっては、かつて多くの人々を死に追いやった悪霊、そして亡くなった人々の霊がさまよう、できるだけ近づきたくない場所です。教会から近いにもかかわらず、私たちはこれまでずっと、ほとんど足を踏み入れていませんでした。しかし、昨年子どもたちがこの集落から導かれたことによって、私たちはこの集落を訪問できるようになりました。



集落の子どもたち、住民たちを覚えてどうぞお祈りください。

<祈りの課題>

1. CBUオフィス教会を通しての宣教活動が祝福されるように。
2. キリング・フィールド近くのコミュニティに福音が広がり、住民が救われるように。
3. 女性支援活動「希望の糸」が導かれ、困窮する女性たちの助けとなるように。
4. 私たちの活動や生活の必要、二人の子ども（来主、栄主）の学費の必要が満たされるように。

嶋田 和幸・嶋田 薫（CBU宣教師）、来主（くろす、14歳）、栄主（えいす、11歳）

（連絡先）Eメールアドレス dekakurosu3927@gmail.com

携帯電話：050-5435-4350（日本から発信可）

（献金振込先）楽天銀行 ノエル支店（支店番号 246）

口座番号 1081064 シマダ カズユキ

